

サギタリウス・チャレンジ チャレンジ部門
企画実施報告書

タイトル	被災地・未災地 学生交流会 ～未来への語り～	
実施日	2014年8月18日（月）～2014年8月22日（金）	
代表者	学生証番号	氏 名
	301925	久保 力也
企画概要	<p>東日本大震災から3年半の現地では、震災体験や、復興への期待、不安を話したくても話しにくいという状況がありました。そこで、東日本大震災に関心のある学生とともに東北に足を運び、災害と向き合う場を作りました。経験の違う学生が災害に向き合い、考える機会を作ったことで、さまざまなものが生まれました。</p>	
活動状況	<p>2014年8月に宮城県で交流会を行いました。合計で50名の学生が集まりました。被災地と未災地（災害が起こる手前の状況の地域）の学生で、災害というものに向き合った3日間でした。未災地の学生は、東日本大震災を直接経験した同世代の体験を受け止め、被災地の学生は、体験がない学生に辛い体験を伝えてくれました。</p> <p>ただ体験を聞くというだけでなく、私たちが生きいく中で、何ができるのかを考えることができました。また、参加者同士の繋がりもでき、交流会後、現在も東北と関西の学生が繋がり、新たなアクションが起こっています。</p>	
考察	<p>交流会を企画した背景にあった被災地の学生の「被災地内では語れない。語る場がほしい。」そして未災地の学生の、東北の現状や当時のことを知りたい。という双方のニーズに対して、交流会中でマッチングできたように思います。また、ただ語っただけではない。同じ空間を過ごし、災害体験から自分にできることを探し、共有したことで経験、地域を超えた繋がりができました。</p>	
所感	<p>交流会の中で特にこだわったのは、語りやすい場づくりです。いきなり、見ず知らずの人に体験や思いを話そうと言われても、抽象的なことしか話しません。まずは友達になるということ。この人になら話したと思ってもらおうと工夫しました。WSをする前に、一緒に遊ぶ、食べる、寝る。全員がまずは、一人の人として向き合う時間を多く作りました。その結果もあり、本音で語り合うことができ、本音だったからこそ、次に繋がっているように思います。</p>	